



佐賀大学

中長期ビジョン

2008-2015

2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020

地域と共に未来に向けて
発展し続ける大学を目指して



佐賀大学

はじめに

「佐賀大学中長期ビジョン(2008～2015)」は、佐賀大学憲章に基づき本学の目指すべき方向性と
その方策を示すものであり、第1期中期目標期間に取り組んできた大学改革の成果を踏まえて本学
の将来を展望している。

平成19年度は、法人化後4年を経て、第1期中期目標・中期計画(2004～2009)に対する評価がほぼ
定まる年度である。この間、法人制度への軟着陸を指導原理として、本学は次の二つの観点から大学
改革を進めてきた。

第一の観点は、従来教員個々の裁量に任されてきた大学の三つの使命－教育、研究、社会貢献－の
全学的・組織的な取り組みの強化である。教育課程ごとに教育の目的を明確にし、授業内容、教育方
法の改善に努めてきた。研究面では、海洋エネルギーの先端的研究、有明海の再生を目指す有明海総
合研究プロジェクトや「佐賀の大学」を象徴する地域学歴史文化研究センターの開設に全学を挙げ
て取り組んできた。さらに、県民・市民の信頼に応える病院を目指す医学部附属病院改革、佐賀大学
TLOの設置を契機に再編新設した産学官連携推進機構など、意識と制度の両面から社会貢献活動の
改革を推進してきた。

第二の観点は、「大学の経営」に対する意識改革の推進である。本学は、佐賀大学憲章を制定して、
佐賀大学の建学の精神・理念を明らかにし、佐賀大学が存在する意義を学内外に問うてきた。大学経
営の要諦は、学生にとって魅力ある大学であり、地域と共に発展する大学を創り上げることである。

佐賀大学学則第2条では、育てる学生像について「国際的視野を有し、豊かな教養と深い専門知識
を生かして社会で自立できる個人を育成する」と規定している。中長期ビジョンの策定にあたって、
教育機関としての大学の原点に立ち返り、教養教育を人間形成の中心的な役割を担う教育の根幹と
位置づけ、学士課程から博士課程まで教養を体系的に身につける高等教育を目指すこととした。こ
の新たな教育構想は、中長期ビジョンの全体を貫く脊柱を形成する。

本中長期ビジョンは、大学の三つの使命を着実に遂行する教育実施体制、研究実施体制、社会貢献
体制の構築とこれらの体制を支える三つのマネジメントカー人材の確保と活用、キャンパス環境の
整備、財政基盤の確立－の強化を目指している。

本学は、この中長期ビジョンを平成22年度から始まる第2期中期目標期間(2010～2015)におけ
る大学改革の指針とする。

平成20年1月
国立大学法人 佐賀大学長
長 谷 川 照

目次

佐賀大学憲章	3
--------	---

佐賀大学が目指す2015年の大学像	4
-------------------	---

目指すべき方向性と主な取り組み

教 育

I 学生の成長と未来を支える教育	5
------------------	---

研 究

II 「明日の社会」を創造する研究	9
-------------------	---

社会貢献

III 地域・国際社会の発展を支える知的拠点として	11
---------------------------	----

大学運営

IV 魅力ある大学づくりに向けて	13
------------------	----

別添「全学教育機構(仮称)の創設について」

- 全学教育機構(仮称)の創設
- 全学教育機構(仮称)の組織体制(イメージ)
- 新たな教養教育システム
- インターフェース領域におけるカリキュラム(イメージ)

佐賀大学憲章

佐賀大学は、これまでに培った文、教、経、理、医、工、農等の諸分野にわたる教育研究を礎にし、豊かな自然溢れる風土や諸国との交流を通して育んできた独自の文化や伝統を背景に、地域と共に未来に向けて発展し続ける大学を目指して、ここに佐賀大学憲章を宣言します

魅力ある大学

目的をもって生き活きと学び行動する学生中心の大学づくりを進めます

創造と継承

自然と共生するための人類の「知」の創造と継承に努めます

教育先導大学

高等教育の未来を展望し、社会の発展に尽くします

研究の推進

学術研究の水準を向上させ、佐賀地域独自の研究を世界に発信します

社会貢献

教育と研究の両面から、地域や社会の諸問題の解決に取り組みます

国際貢献

アジアの知的拠点を目指し、国際社会に貢献します

検証と改善

不断の検証と改善に努め、佐賀の大学としての責務を果たします

佐賀大学が目指す 2015年の 大学像



佐賀大学は、活気に満ちた教育・研究活動、すなわち学生中心の大学にふさわしい洗練された教育の提供と地域・国際社会に開かれた特色ある研究・社会貢献活動を展開し、佐賀大学憲章において宣言した、地域と共に未来に向けて発展し続ける大学を目指すことにより、個性と特色を持った「佐賀の大学」として確固たる地位を確立する

このため、すべての構成員が英知を結集するとともに、その総合力を最大限に発揮できる大学づくりを目指す

教育

I 学生の成長と未来を支える教育

21世紀における知的基盤社会を支える豊かな教養と専門性を兼ね備えた市民を育成するための教育を目指す

重点事項

- ①教養教育を人間形成の中心的な役割を担う教育の根幹と位置付け、すべての学生が豊かな教養を体系的に身に付けることができる教育を提供する
- ②教育課程ごとの目的に沿った専門教育の実質化を図る
- ③カリキュラム改革や語学教育の充実を通して教育の質を高める
- ④入学前から就職後まで充実した教育支援プログラムを提供する

実現に向けての主な取り組み

1. 教養教育の充実・強化

- ◇佐賀大学は、教養教育を大学教育の根幹と位置付け、人間としての在り方や生き方に関する深い洞察力と現実を正しく理解する力を涵養することをその理念とし、すべての学生に対して、
 - 専門分野の枠組みを越えて共通に求められる知識や思考法等の知的技法を修得する
 - 国際社会に適切にかつ柔軟に対応できる能力を育成する
 ための教育を提供する。
- ◇このため、各学問領域における基礎的・基盤的な学力の修得を目指した教育及び実践を通して課題を発見し解決に向けて取り組む姿勢を養うための教育を体系的に提供する本学独自の新しい教養教育システムを確立するとともに、明確な責任体制の下に着実に実施するための組織として「全学教育機構(仮称)」を創設する。【別添「全学教育機構(仮称)の創設について」参照】

2. 専門教育の実質化

- ◇各専門分野の学識に裏付けられた創造力、課題探求・解決能力を育成するための教育システムを構築する。
- ◇総合大学としての利点を生かした幅広い教育プログラムを提供する。

3. 教育課程ごとの目指すべき教育

教育課程	目指すべき教育
学士課程	<ul style="list-style-type: none"> ○豊かな教養の修得とそれぞれの分野における学力に基づいた専門的な見方ができる素養を培う教育 ○豊かな教養に裏打ちされた専門職業人を養成するための教育(教員, 医師, 看護師等養成)
修士課程	<ul style="list-style-type: none"> ○学士課程で培った豊かな教養と専門的な素養の上に、さらに専門性を向上させるための深い知的学識を涵養し、社会で高度の専門性を発揮できる能力を養うための教育
博士課程	<ul style="list-style-type: none"> ○高度の研究能力と豊かな学識を養い、高度の専門性が求められる社会でリーダーシップを発揮できる能力を培う教育

4. 教育課程の編成

新しい教養教育システムによる教育を教育課程の中に重点的に位置付けた上で、各分野の教育課程を編成する。

学士課程

◇教員養成分野

小学校教員養成においては、「発達障害と心身症への支援に強い教員養成」を特長としたより高度で実践的な教育を、地域社会と連携しながら展開していく教育課程を編成する。

中学・高校の教員免許取得に必要な教育については、全学に開放し、新たな教育システムの下で充実を図る。

◇医療人養成分野

医療人養成分野では、新しい教養教育、課題発見・問題解決型の医学・看護学教育、診療参加型実習が総合的に組み込まれたカリキュラム編成のもとに、地域医療に貢献し、患者中心の良き医療人の養成を目指した教育課程を編成する。

◇人文・社会科学分野

人文科学分野では、異文化とジェンダーに深い理解を有し、我が国の文化を内外に発信しうる人材を、また、地域の特性を活かした美術・工芸分野の人材を育成する教育課程を編成する。

社会科学分野では、経済学・経営学・法学を融合した深い専門知識を活かせる人材を育成する教育課程を編成する。

◇自然科学分野

理工系分野では、理学と工学の基礎的・基盤的教育研究に加えて、理学と工学が融合したハイテク分野や学際的領域の分野にも柔軟に対応できる教育課程を編成する。

農学分野では、生物科学を基礎にして、食料・環境等の問題に対応できる人材を育成する教育課程を編成する。

◇地域生活文化分野

現代社会に必要とされる高質の地域生活文化(食育、医療福祉など)を探求・指導しうる人材を育成するとともに、本学における地域貢献の拠点形成を図る観点から、全学規模の再編を視野に入れた医文理融合型の教育研究を行う教育課程の創設を目指す。

修士課程・博士課程

各専門分野において、課程・専攻ごとの教育研究の目的を明確にし、コースワークを中心とした体系的なカリキュラムの下に教育を展開することを基本とした課程を編成する。

◇教員養成分野

教員養成分野では、地域が抱える教育課題に的確に対応するため、現職教員の再教育も含めたより実践的な高度専門職業人の養成機能を有する教育課程を編成する。

中学・高校の教員専修免許取得に必要な教育については、学士課程と同様に全学に開放し、新たな教育システムの下で充実を図る。

◇人文・社会科学分野

人文・社会科学系分野では、グローバル化した社会の多様な課題に実践的に対応しうる高い専門性を備えた人材を育成する教育課程を編成する。

◇医療人養成分野

医療人養成分野では、幅広い学識を備えた高度専門医療・看護に携わる人材を育成する。さらに、医文理融合による健康・福祉に関する学際的教育課程の創設を他大学との連携も視野に入れつつ検討する。

◇自然科学分野

自然科学系分野では、最先端の研究を推進していく若手研究者の育成や社会科学系の研究分野との融合による広い視野と高度な専門的知識を有する技術者養成を目的とする教育課程の創設を目指す。

5. 教育の質を高めるための取り組み

- ◇社会経済の動向・ニーズを踏まえたカリキュラム改革や学生の理解度や学習スタイルの多様性に応じた教育方法・内容の開発を進めるとともに、厳正かつ適正な成績評価ができるシステムを確立する。
- ◇ネイティブスピーカーによる英語授業やアジア系言語(中国語・朝鮮語その他)の履修機会の拡充を通して語学教育を充実するとともに学生の海外留学を促進し、諸外国との国際交流を推進する。
- ◇多様なメディアの有効活用や私学を含めた地域高等教育機関コンソーシアムによる相互連携などを進めることによって、授業形態の多様化を図る。
- ◇大学院教育においては、本学の個性・特色ある最新の研究活動を教育に積極的に反映させる。
- ◇学生による授業評価やファカルティ・ディベロップメント(FD)を全学的に実施し、その結果を教育方法や授業内容の改善にフィードバックするシステムを確立する。

6. 入試と学生支援体制

- ◇特定の分野においてAO入試を導入するなど入試方法の多様化を図り、入試情報の効果的な広報を行う。
- ◇佐賀大学基金を活用した本学独自の奨学金制度を創設するなど学生に対する経済的支援を一層充実する。
- ◇就職情報の効果的な提供やインターンシップの実施など総合的なキャリア・就職支援を強化するための体制を整備する。

研究

Ⅱ「明日の社会」を創造する研究

各分野の基礎的・基盤的研究を礎にして、佐賀地域独自の研究や社会からの要請に応える研究を組織的に展開し、世界に発信していくことを目指す

重点事項

- ①長期的視点に立った基礎的・基盤的研究を着実に推進していくことにより学術研究水準の向上を図る
- ②「健康・生活」「地域」「環境」「エネルギー」に関する研究を組織的な体制の下に重点的に展開し、国際的に高い研究水準を目指す

実現に向けての主な取り組み

1. 基礎的・基盤的研究の着実な推進

◇科学研究費補助金, 外部資金の獲得などにより, 基礎的・基盤的研究経費を充実する。
また, 研究全般の活性化を図る観点から萌芽的研究への支援や若手研究者の育成に重点的に取り組む。

2. 重点領域研究の推進

◇「地域医療科学」「佐賀学」「有明海をめぐる環境問題」「海洋エネルギーの研究開発」「シンクロトン光応用研究」など地域及び社会の発展に貢献する特色ある研究を推進する。

3. 国際的な研究水準の向上

◇諸外国の大学等との共同研究に積極的に取り組み, 本学が中心となって国際会議, 国際シンポジウムの開催を推進する。

4. 研究実施体制の整備

◇佐賀大学の研究全般を掌握し, 研究の方向性, 研究戦略の企画立案など組織的な研究活動を推進するために「総合研究戦略会議(仮称)」を設置する。

◇研究センターに大学院教育(人材育成)機能を持たせるシステムを構築する。

5. 学内共同研究センター

◇学内共同研究センターは, 研究目的を定めたプロジェクト型研究を行う組織であるとの基本認識の下, 各研究センターに対する時限を定め, 時限ごとに研究成果, 地域・社会からの要請の動向, 研究の独自性などについて評価・検証し, その結果を踏まえて再編・統合を進めるなど, 柔軟な組織編制が可能となるシステムを確立する。

社会貢献

Ⅲ 地域・国際社会の発展を支える知的拠点として

地域社会、国際社会の発展を「知」の発信と「人づくり」で支えていくための知的拠点の形成を目指す

重点事項

- ① 教育研究の成果を積極的かつ効果的に社会に還元する
- ② 地域社会の期待に応える各種の取り組みを積極的に展開する
- ③ 社会をリードするシンクタンクとしての役割を果たす
- ④ アジアを中心に、教育研究水準を相互に高める効果的な国際交流を展開する

実現に向けての主な取り組み

1. わかりやすい情報の発信

◇教育研究をはじめ佐賀大学が行っている諸活動の状況を社会にわかりやすく発信する。

2. 地域社会への貢献

◇重点領域研究を通じて地域や社会の要請に応える。

◇公開講座や講演会など多様な学習機会の提供による生涯教育や、地域の教育拠点として高等学校などの教育機関に対する教育支援を組織的な体制の下に推進する。

◇大学の多様な知的資源を活用して地域社会における文化的・芸術的な活動の振興に寄与する。

◇地域に根ざした産学官パートナーシップを発展させ地域の活性化に寄与する。

◇社会が抱える問題や国・自治体等の施策に対して提言・助言を行う。

3. 地域医療への貢献

◇地域医療機関や行政との連携により、住民本位の医療を積極的に展開するとともに、医療従事者の生涯教育などを通じて医療の質を高め、安全と安心に応える地域包括医療の発展に努める。

◇地域包括医療の拠点として附属病院の整備・再開発を目指す。

4. 国際社会への貢献

◇留学生への修学支援の質的向上や学術交流協定校との連携の強化、学生の海外留学の促進を図る。

◇国際共同研究や国際シンポジウムなどを通して国際交流を推進する。

◇総合的な国際交流推進体制を整備するため、「国際交流センター（仮称）」を創設する。

大学運営

Ⅳ 魅力ある大学づくりに向けて

活気に満ちた魅力ある大学づくりを確かなものとするため、すべての構成員の英知を結集するとともに、人的資源を活かした大学の総合力を最大限に発揮できる大学づくりを目指す

重点事項

- ①大学の総合力を最大限に発揮できるマネジメント体制を確立する
- ②有為な人材の確保と教職員の能力開発に努めるとともに、卒業生、地域社会との有機的な連携を図る
- ③教育・研究・診療活動を支える魅力あるキャンパス環境の計画的な整備に努める
- ④中長期的な財政計画に基づく安定的な財政基盤を確立する
- ⑤すべての構成員が大学の目的と使命を自覚し、一体感をもって教育研究活動を展開していける教育研究運営体制を構築していく

実現に向けての主な取り組み

1. 大学マネジメント力の強化

- ◇学長が大学運営全般にわたり、強いリーダーシップを発揮して経営と教学を一体的に運営できる仕組みを構築する。
- ◇各理事が明確な役割分担の下で、企画力と行動力をもって教育、研究、運営等に係る諸問題に対処するとともに、必要に応じて重要な政策に関して戦略的に対応していく仕組みを構築するなど、迅速かつ機動的な大学運営体制を整備する。
- ◇女性が経営に参画する大学運営を目指す。
- ◇部局との連絡会議等を通して、法人側と教学側の意思疎通を図り、各種情報の伝達・共有及び部局間の調整を効果的に行う。
- ◇教育研究をはじめ佐賀大学が行っている諸活動について、一元化されたデータベースを整備する。
- ◇事務組織が大学運営を支える専門職能集団としての役割を発揮できるよう、マネジメント力を向上させる。
- ◇学内資源の配分は、本学の目的と競争的環境の醸成等の観点に立って、戦略的かつ効果的に行う。

i 人材の確保と活用

- ◇大学の目的に沿って、専門的能力を持った社会人など有為な人材の登用に努める。
- ◇他機関との人事交流や研修を通じて教職員の資質向上と能力開発を進める。
- ◇卒業生や地域社会との有機的な連携を図り、大学の重要なパートナーとして経営・運営に活用する。

ii 魅力的なキャンパス環境整備

- ◇十分な自学自習スペースの確保など、学生が快適に学習・研究活動に専念できるような教育環境を整備する。
- ◇本学の理念・目標に沿って生き生きとした教育・研究と患者中心の診療活動が展開されるよう、「知の拠点」にふさわしい教育研究環境を整備する。
- ◇地域に開かれたキャンパス環境と、知的創造の場に相応しいコミュニティづくりを実現する。
- ◇エコアクション21に基づく環境に配慮した取り組みを学生と教職員が協力して実践するとともに、安全に配慮した快適なキャンパスづくりを進める。

iii 財政基盤の確立

- ◇財政基盤を確立するため、支出の抑制に努めるとともに、外部資金の獲得、新たな基金の創設など、多様な自主財源の確保に努める。
- ◇病院財政基盤を強化するため、増収を図るとともに、医療従事者の柔軟な配置や医療設備の整備などを進め、経営の効率化に努める。

2. 教育研究運営体制

- ◇現在の講座・教育課程等ごとに細分化された教員配置と教授会組織の枠組みを越えて、本学の教育の根幹をなす全学教育機構(仮称)における教養教育をはじめ、大学の目的(教育, 研究, 社会貢献)に沿った諸活動を、全構成員が総力を挙げて支えていくことのできる柔軟かつ機動的な運営体制の構築を目指す。

大学運営のイメージ

地域と共に未来に向けて発展し続ける大学

研究

「明日の社会」を創造する研究

教育

学生の成長と未来を支える教育

社会貢献

地域・国際社会の発展を支える知的拠点として

大学マネジメント力の強化

- 事務組織のマネジメント力向上
- 戦略的な学内資源配分
- 女性の経営参画

- 学長のリーダーシップの発揮

- 理事の管理執行機能の強化と機動的な大学運営
- 法人側と教学側の円滑な意思疎通
- データベースの整備

キャンパス環境整備

- 学生中心の教育環境の充実
- 教育・研究・診療環境の充実
- コミュニティの形成
- 環境と安全に配慮したキャンパスづくり

人材の確保と活用

- 有為な人材の確保と能力開発
- 卒業生, 地域社会との有機的な連携

財政基盤の確立

- 多様な自主財源の確保
(新たな基金の創設など)
- 病院財政基盤の強化

全学教育機構(仮称)の 創設について

全学教育機構(仮称)の創設

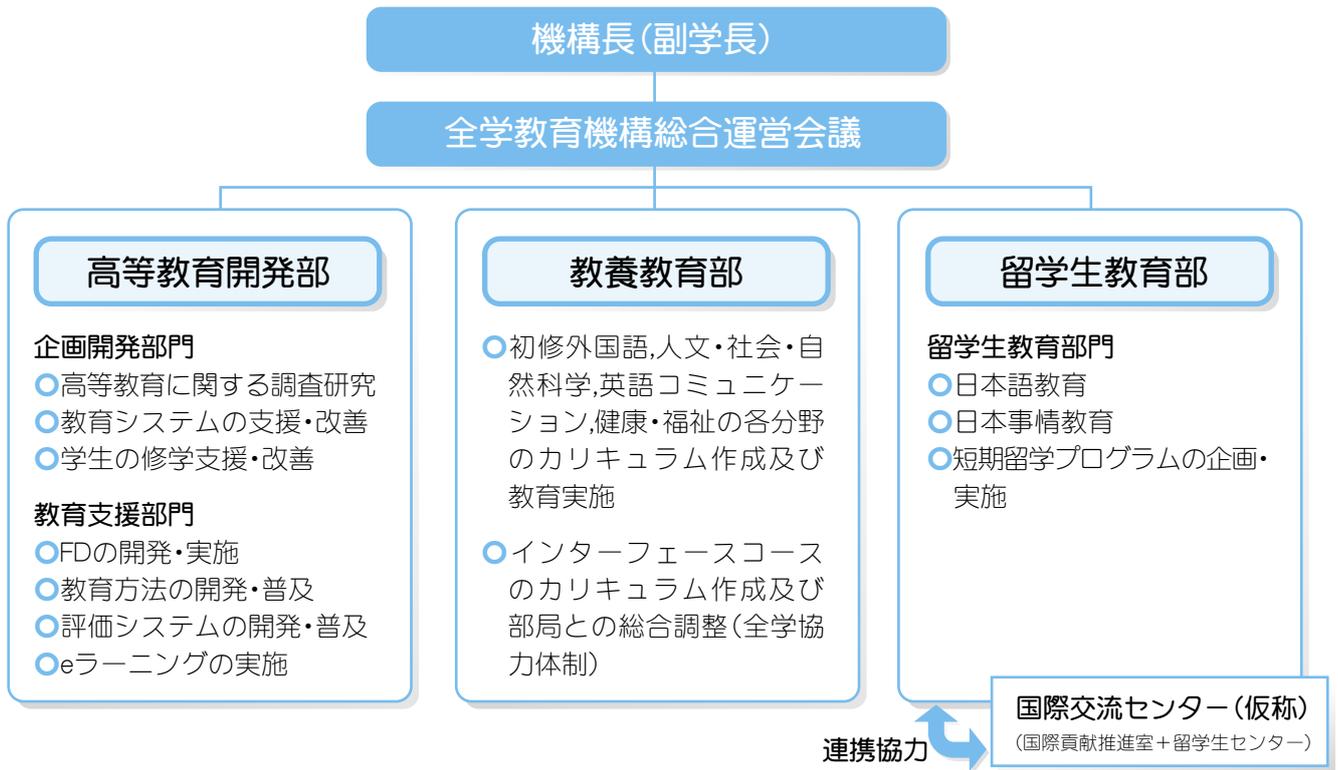
改革の
必要性

- 21世紀における知的基盤社会を支える豊かな教養と専門性を兼ね備えた市民の育成
- 大学教育の根幹としての教養教育
- 教育の質保証(教育内容・方法等の改善充実による学生中心の大学づくり)
- 留学生教育の充実・強化

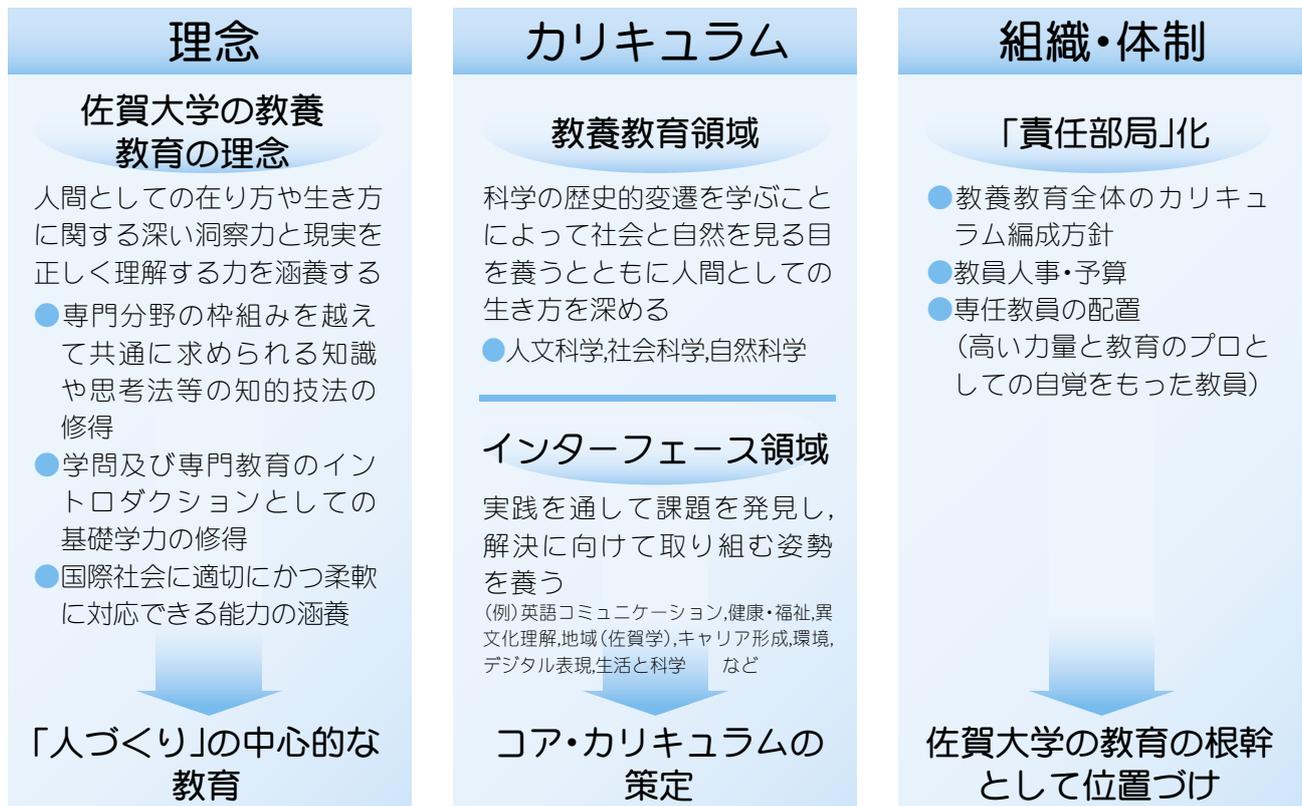
教養教育の理念に基づいた体系的な教育の提供
教養教育に対する責任体制の明確化
教育改善システムの確立

責任部局として一体的な教育体制を整備

全学教育機構 (仮称) の組織体制 (イメージ)



新たな教養教育システム



インターフェース領域におけるカリキュラム(イメージ)

異文化理解コース

目的: 諸外国の歴史や文化を理解し,国際的な視野と感性を身に付ける

対象地域: 韓国,中国,東南アジア,欧米 etc...

カリキュラム

- 歴史,文化,言語を体系的に学修
- 体験実習(選択)

地域(佐賀学)コース

目的: 地域に関わる諸課題について具体的に学び経験することにより,問題発見力と問題解決力を養う

カリキュラム

- 地域と風土(地域アイデンティティー)
- 有明海,低平地における諸問題
- 佐賀の医療
- 身近な環境(フィールドワーク) etc...

環境コース

目的: 自然環境に関するグローバルな知識を身につけ,環境問題解決の方策を探る

カリキュラム

- 現代の環境問題(都市開発,人口,食糧)
- エネルギー問題
- 佐賀環境フォーラム
- 環境保全の技術の歴史
- 身近な環境(フィールドワーク) etc...

キャリア形成コース

目的: 21世紀型社会市民として必要な知識を身につけるとともに,自主性,独創性,人間性を養い,自己実現をめざす

カリキュラム

- 社会保障,労働法,地方自治,企業論,社会学
- 社会規範,倫理,ジェンダー問題
- 消費者教育,消費者と法
- インターンシップ実践 etc...

デジタル表現コース

目的: コンピュータでデジタル画像を扱うための手法とデジタルコンテンツ作成に必要な基本的知識と技術を身につける

カリキュラム

- 芸術と表現(映画制作,映像構成,デジタル表現技法,音と映像,画像構成)
- デジタルデザイン
- 教育デジタル表現 etc...

生活と科学コース

目的: 人間社会を取り巻く自然現象や法則,科学技術・産業の発展と生活との関わりなどを学ぶことにより,柔軟で多角的なものの見方を涵養する

カリキュラム

- 発達と社会
- 人間社会とコミュニケーション
- 身のまわりの科学
- 自然と生命
- 科学技術と生産 etc...

<http://www.saga-u.ac.jp/>